

に反対しました。そのため、京都議定書の第1 約束期間を過ぎた2013 年以降は、日本に温室効果ガスを減らす義務はなくなり、自主的な目標のもとに努力することになりました。

2015年「COP21」 フランス・パリ

2020 年以降の新たな国際ルールとして「パリ協定」が採択されましたが、各国が示す削減目標値を全て達成しても「2℃目標」には届かず、3度前後気温が上がってしまうことが分かっています。

(主な内容)

- 2020 年以降の地球温暖化対策に、全ての国が参加する。
- 世界の平均気温上昇を、産業革命から2℃未満に抑え、1.5度未満になるよう努力する。
- 今世紀後半に温室効果ガスの排出を実質ゼロにする。
- 世界全体の温室効果ガス削減目標を設置し、5年ごとに検証する。
- 参加国は削減目標をたて、5年ごとに見直し、国連に報告する。
- 温暖化への適応策にも取り組む。
- 途上国への資金支援を先進国に義務づける。

2016年「COP22」 モロッコ・マラケシュ

2015 年に採択された「パリ協定」は2016 年11 月4 日に発効し、いよいよ行動を始めることになりました(発効条件:最低でも55 か国が批准し、批准国の温室効果ガス排出量の合計が世界総排出量の55%を上回ること。日本が批准したのは11 月8 日)。その後、モロッコで開かれたCOP22 では、「パリ協定」に実効性をもたせるルール作りを2018 年までに終わることが決まりました。また、先進国から途上国への支援を毎年1000 億ドルとする体制を整えることも決まりました。2018 年11 月にドイツのボンで開かれるCOP23 は、フィジーが議長国を務めます。

IPCC 第5 次評価報告

IPCC とは、地球温暖化の原因と影響を研究する専門家の集まりです。IPCC では、5 ～ 6 年ごとに研究したことを発表していて、

- 地球温暖化について「疑う余地はない」
- 1880 ～ 2012 年の間に、世界の平均地上気温は0.85℃上昇した。
- 今世紀末までの世界の平均地上気温の変化は0.3 ～ 4.8℃で、海面水位の上昇変化は0.26 ～ 0.82m である可能性が高い。
- 北極海の氷が縮小していて、今世紀半ば、夏の氷は消滅するかもしれない。

といったことが報告されました。日本の場合、海面が65 cm 上がると全国の砂浜の8割がなくなる可能性があるといわれています。

日本の取組み

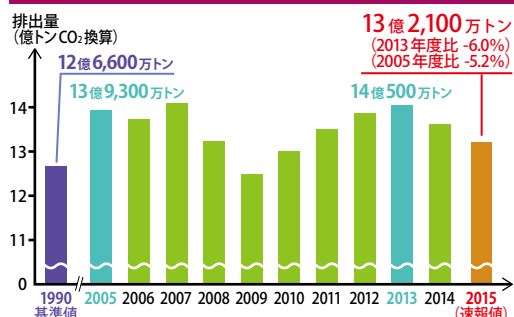
2015 年度の日本の温室効果ガスの総排出量(CO₂換算)は、13 億2,100 万トン(速報値)でした。

日本は、温室効果ガスの排出量を2013 年に比べて2030 年までに26%削減することを世界に約束しています。そのための一策として、太陽や風、水、温泉、バイオマスといった自然の力を利用する再生可能エネルギーの活用をすすめることは重要です。日本では、2030 年までに再生可能エネルギーの活用による発電量を現在の約2 倍の2割に増やそうとしています。ですが、生態系や景観への影響、設備から出る音の問題など解決していかなければならない課題もたくさんあります。

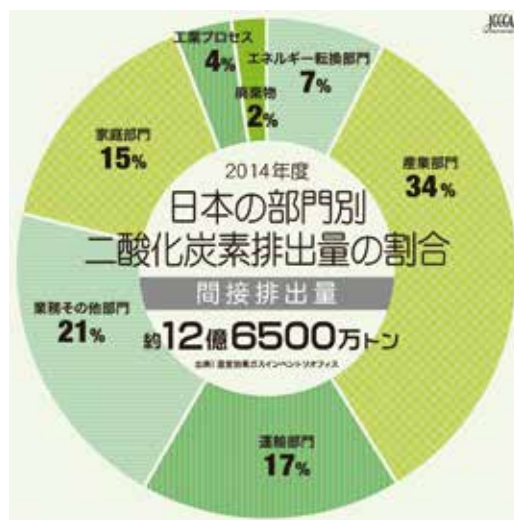
国名	削減目標	削減基準
中国	2030 年までに GDP 当たりのCO ₂ 排出量を 2005 年比で 60-65% 削減	2005 年比
EU	2030 年までに 40% 削減	1990 年比
インド	2030 年までに GDP 当たりのCO ₂ 排出量を 2005 年比で 33-35% 削減	2005 年比
日本	2030 年までに 26% 削減 (※2005 年比では25.4%削減)	2013 年度比
ロシア	2030 年までに 70-75% に削減	1990 年比
アメリカ	2025 年までに 26-28% 削減	2005 年比

出典: JCCCA ホームページ

日本の温室効果ガス排出量



参考: 環境省ホームページ



出典: JCCCA ホームページ

日本の2030年度の電源構成

